

# 2010年度 一橋大世界史

## 概要

### (1) 時間 / 配点 / 問題数

時間: 120 分 / 配点: 商学部 125 点、法・経済学部 160 点、社会学部 230 点 / 問題数: 3 題

### (2) 出題・解答の形式

例年通り、すべて記述式。

解答用紙は 25 字 × 16 行のマス目。

### (3) 分量 / 難易度の変化(昨年度比)

分量: 変化なし / 難易度: やや難化

### (4) 特記事項

は昨年は 400 字 1 題で出題されたが、今年は 50 字 × 1 題・350 字 × 1 題だった。

は昨年は 200 字 × 2 題で出題されたが、今年は 100 字 × 1 題・150 字 × 2 題だった。

## 各問の分析

大問	出題テーマ(形式)	問題の内容・分析	難易度
	叙任権闘争の意義 (論述 400 字)	叙任権闘争は例年の一橋大で頻出のテーマではあるが、引用資料・問題文が内容を把握しづらい文章である上に、「現実の」政治・社会生活に対してもった意義」という設問の要求から、具体的に何について言及すべきなのか解答の方向性を設定するのが非常に難しい。ヴォルムス協約だけでなく叙任権闘争そのものの後世に対する意義について説明するのは、高い思考力が要求される。	難
	問1 19世紀の交通網の発達 (論述 50 字) 問2 女性参政権の背景 (論述 350 字)	問1. スエズ運河と大陸横断鉄道の説明は基本事項。確実に解答したい。(やや易) 問2. 「背景」を説明することが求められているので、各国の女性参政権実現の経緯ではなく、1920 年前後という年代から、総力戦のための国民統合の必要性を中心に論じる必要がある。指定語句では「クリミア戦争」を文脈に自然な流れで組み入れること、「ロシア革命」で細かい知識に言及する部分がやや難しい。(やや難)	やや難
	問1. 平和十原則 (空欄補充・論述 100 字) 問2. 周恩来と西安事件 (論述 150 字) 問3. ネルーと国民会議派 (論述 150 字)	問1. 空欄補充は全問正解必須。論述も、会議で提唱された内容と、平和十原則の内容を列記すれば字数が埋まるものであり、確実に解答したい。(やや易) 問2. 周恩来を明示し、西安事件と第二次国共合作についての的確に説明できればよい。(やや易) 問3. 問2と同じく、ネルーを明示し、インド国民会議派についての用語説明ができればよいが、問2に比べて字数配分に若干注意が必要。(標準)	標準

難易度は一橋大受験生を母集団とする基準で判定しています。

## 今年度の出題について

出題傾向・難易度に大きな変化は見られなかった。2009年度に続き、問題文から「何を書くべきか」をより的確に読み取る力が求められる出題であった。一橋大学で頻出の時代・地域については、今後も詳細な用語まで詰めて学習をしておくことが重要であろう。

は、昨年は頻出の中世ヨーロッパからやや外れた9世紀以前の地中海世界からの出題であったが、今年度は例年どおり中世ヨーロッパから出題され、内容も定番テーマである叙任権闘争に関する問題であった。叙任権闘争の問題は2002年にも出題されていたが、難易度は2002年のものよりも高く、中世ヨーロッパ史全体についての考察を要求する難問であった。

は例年どおり近現代の欧米史からの出題であった。2006年は250字1題・150字1題、2007年は400字1題、2008年は100字1題・150字2題、2009年は400字1題と、年度によって字数構成が変化している。2010年は50字1題・350字1題であった。50字論述は単純な事項説明であったが、350字論述は歴史的背景に関する深い理解が必要とされる問題であった。

は戦後のアジアに関する問題であった。例年 度は近現代アジアからの出題が多いが、戦後からの出題は2000年のベトナム戦争以来であった。2006年は単答も含めた小問6題、2007年は100字2題・200字1題、2008年・2009年は200字2題と、年度によって字数構成が変化している。2010年は100字1題(空欄補充含む)・150字2題であった。問1～3まで基本的な知識説明の問題であり、2009年の 度に比べて難易度は若干低下した。

## 一橋大世界史の出題傾向

ほぼ論述問題のみの構成で、大問3題のうち、1題もしくは2題、史料問題が出題される。

出題地域は、欧米史2題・アジア史1題となっている。 度で中世ヨーロッパ史、 度で18～20世紀の欧米史、

度で19～20世紀のアジア史を扱うことが多い。特にドイツ史・アメリカ史、清代～中華民国にかけての中国史、20世紀の朝鮮史、近現代インド史については、要注意である。

題意を捉えにくい出題も多く、全体的に難度は高い傾向にある。

## 求められる力とその養成

政治・宗教・経済・社会・文化と、多岐にわたるテーマを深く掘り下げる難問が今後も出題されるであろう。まずは基礎学力の確立が最優先である。まずは標準レベルの問題で必ず得点できるような力をつけたい。そのためには、教科書学習をきちんと行うことが必要である。その上で論述問題に数多く当たり、演習を通して「題意を把握すること」「論述を組み立てること」「制限字数内に収めること」といった基本を身につけたい。

また、一橋大学の出題は、問題を一読しただけでは、何を解答に盛り込めばよいのか題意がつかみにくい問題が出題されることが多い。過去問には必ず取り組んでおきたい。